



今週のポイント

米エヌビディアが決算を発表、売上高の実績・見通しともに市場予想を上回るも株価は下落

注目されたエヌビディアの決算が20日に発表されました。期待された発表後の株式市場全般の浮揚はありませんでしたが、無難に通過したものと思われます。2024年8～10月期の売上高、純利益ともに四半期ベースで過去最高を更新、市場予想も上回りました。また、市場が注目した2024年11～25年1月期の売上高の見通しも375億ドル前後と市場予想の約370億ドルを上回りました。

しかし、株価は利益確定売りに押され、発表直後の時間外取引で一時5%下落しました。週末の株価も141.95ドルで発表前19日の終値147.01ドルから3.4%沈んでいます。マーケットの一部に次世代AI半導体「ブラックウェル」の出荷を巡る懸念があることは事実です(同製品の実装によるサーバー内部加熱の問題等。ただし、コレット・クレスCFO(最高財務責任者)はブラックウェルのフル生産を強調)。エヌビディアの株価停滞は、米ハイテク株集中相場の是正・あるいは終了という文脈で考えるべきです。生成AIの成長ストーリーは継続、ブラックウェルをもって当面の競争優位を確保し時価総額1位の座を維持するものと思われますが、四半期ごとに株価が急上昇する局面は終わりを迎えたと考えています。

米株式市場ではシクリカル(景気敏感)株への物色が進むと予想される

週末のNYダウは最高値を更新しました。米大統領選にてトランプ前大統領の勝利が確定した後に急上昇し、その後は調整含みで推移していましたが、S&Pグローバルが22日に発表した11月の米購買担当者景気指数(PMI)※速報値が55.3(総合)と2年7カ月ぶりの高水準となったことを受けて再浮上しています。

足元の景況感の強さを確認するとともに、トランプ次期大統領の景気浮揚策への期待も再燃しています。Fed Watchによると、12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)における利下げ確率は52.7%に低下していますが、今後は景況感の強さとトランプ次期大統領の経済政策を意識したシクリカル株相場が活発化しそうです。シクリカル株相場は集中から分散を意味し、日本株にもフォローとなり得ます。

当面の日本株は上値が重いと思われるものの、年末にかけては株高になると見込まれる

ただし、現状はトランプ次期大統領の政策であるMAGA(Make America Great Again)を意識した相場展開が続き、米国株式市場への集中を加速させています(ハイテク株からシクリカル株への分散の中)。トランプ次期大統領が対中規制を強化することは明確で、中国景況感の悪化、さらに欧州に伝播(欧州は比較的中国依存度が高い)し、欧州ほどでは無いものの日本企業の業績悪化にもつながり、米国市場への資金シフトが続いています。さらに、ボラタイルな(値動きが激しい)日本株はヘッジ市場として魅力度を高めているため、CTA等の短期投資家がショート(売り)ポジションを積み増しています。7月第3週から11月第2週まで、海外投資家は先物ベースで約4兆円売り越しています。当面、MAGAをベースとした相場観の下で米国株買い・日本株売りのポジションが積み上がり、上値が重い日本株相場が続くと思われます。ただし、売りポジションの蓄積は上昇エネルギーに転化します。依然として年末ラリーを想定しています。

※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

～ワンポイント用語集～

※ 購買担当者景気指数(PMI)…企業の購買担当者に新規受注や生産、雇用の状況等を聞き取り、景況感を指数化した景気指標。PMIは「Purchasing Managers' Index」の略。製造業、サービス業ごとに集計が行われており、特に製造業PMIは景気動向の変化をいち早く示す指標として注目される。